【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第３区分
【発行日】令和6年2月19日(2024.2.19)

【公開番号】特開2022-126549(P2022-126549A)
【公開日】令和4年8月30日(2022.8.30)
【年通号数】公開公報(特許)2022-159
【出願番号】特願2021-24692(P2021-24692)
【国際特許分類】
Ｇ０６Ｆ 21/64(2013.01)
Ｇ０６Ｆ 9/4401(2018.01)
Ｇ０６Ｆ 9/445(2018.01)
【ＦＩ】
Ｇ０６Ｆ 21/64
Ｇ０６Ｆ 9/4401
Ｇ０６Ｆ 9/445

【手続補正書】
【提出日】令和6年2月8日(2024.2.8)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
情報処理装置であって、
第１プログラムを保持する不揮発性のメモリと、
第２プログラムと第３プログラムを格納するように構成された不揮発性のストレージと、
前記第１プログラムが有効であるか否かを検証する第１プロセッサと、
前記第１プログラムが有効である場合に、前記第１プログラムを実行する第２プロセッサと、を有し、
前記第２プロセッサは、
前記第２プログラムが有効であるか否かを検証し、
前記第２プログラムが有効である場合には、前記第２プログラムを実行し、前記第２プログラムが有効でない場合には、前記第３プログラムが有効であるか否かを検証し、
前記第３プログラムが有効である場合には、前記第３プログラムを用いて前記第２プログラムを上書きすることを特徴とする情報処理装置。
【請求項２】
情報を通知する通知手段を有し、
前記第３プログラムのバックアップが有効でないと判定されることによって、前記通知手段はエラーを通知することを特徴とする請求項１に記載の情報処理装置。
【請求項３】
ネットワークを介して外部装置と通信する通信手段を有し、
前記第２プロセッサによって前記第３プログラムが有効でないと判定されることによって、前記通信手段から第４プログラムを受信し、
前記第２プロセッサは、
前記受信した前記第４プログラムの有効であるか否かを検証し、
前記第２プロセッサによって有効であると判定された前記第４プログラムによって、前記ストレージに記憶された前記有効でないと判定された前記第３プログラムを上書きする

ことを特徴とする請求項１に記載の情報処理装置。
【請求項４】
前記第２プロセッサは、前記有効でないと判断された前記第２プログラムを前記上書きされた前記第３プログラムで上書きすることを特徴とする請求項３に記載の情報処理装置。
【請求項５】
前記第２プロセッサは、
前記上書きした前記第２プログラムを実行可能であることを特徴とする請求項１乃至４のいずれか１項に記載の情報処理装置。
【請求項６】
前記ストレージは、画像データを記憶するストレージであり、
前記第２プログラムおよび前記第３プログラムは、Ｌｏａｄｅｒであることを特徴とする請求項１乃至５のいずれか１項に記載の情報処理装置。
【請求項７】
前記第２プロセッサは、前記第３プログラムが有効である場合には、前記第３プログラムの全てのデータによって、前記ストレージに記憶された前記第２プログラムの上書きを実行することを特徴とする請求項１乃至６のいずれか１項に記載の情報処理装置。
【請求項８】
前記不揮発性のメモリは、画像データを記憶しないメモリであり、
前記不揮発性のメモリに記憶された前記第１プログラムは、ＢＩＯＳであることを特徴とする請求項１乃至７のいずれか１項に記載の情報処理装置。
【請求項９】
前記ストレージは、第５プログラム、第６プログラム、第７プログラム、第８プログラムを記憶し、前記第５プログラムは、Ｋｅｒｎｅｌであり、前記第６プログラムは、前記Ｋｅｒｎｅｌのバックアップであり、前記第７プログラムは、ファームウェアであり、前記第８プログラムは、前記ファームウェアのバックアップであることを特徴とする請求項１乃至８のいずれか１項に記載の情報処理装置。
【請求項１０】
第１プログラムを保持する不揮発性のメモリと、第２プログラムと第３プログラムを格納するように構成された不揮発性のストレージと、前記第１プログラムが有効であるか否かを検証する第１プロセッサと、前記第１プログラムが有効である場合に、前記第１プログラムを実行する第２プロセッサと、を有する情報処理装置の制御方法であって、
前記第２プロセッサは、
前記第２プログラムが有効であるか否かを検証し、
前記第２プログラムが有効である場合には、前記第２プログラムを実行し、前記第２プログラムが有効でない場合には、前記第３プログラムが有効であるか否かを検証し、
前記第３プログラムが有効である場合には、前記第３プログラムを用いて前記第２プログラムを上書きすることを特徴とする情報処理装置の制御方法。
【請求項１１】
請求項１０に記載の制御方法を、コンピュータに実行させるためのプログラム。
【請求項１２】
請求項１１に記載のプログラムを格納したコンピュータで読み取り可能な記憶媒体。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００６】
本発明は、情報処理装置であって、第１プログラムを保持する不揮発性のメモリと、第２プログラムと第３プログラムを格納するように構成された不揮発性のストレージと、前記第１プログラムが有効であるか否かを検証する第１プロセッサと、前記第１プログラム

が有効である場合に、前記第１プログラムを実行する第２プロセッサと、を有し、前記第２プロセッサは、前記第２プログラムが有効であるか否かを検証し、前記第２プログラムが有効である場合には、前記第２プログラムを実行し、前記第２プログラムが有効でない場合には、前記第３プログラムが有効であるか否かを検証し、前記第３プログラムが有効である場合には、前記第３プログラムを用いて前記第２プログラムを上書きすることを特徴とする。